ぶら研「すんくじら」

令和６年度 志和池小　校長室から ぶらっと研修　４　６月３日　文責 田爪

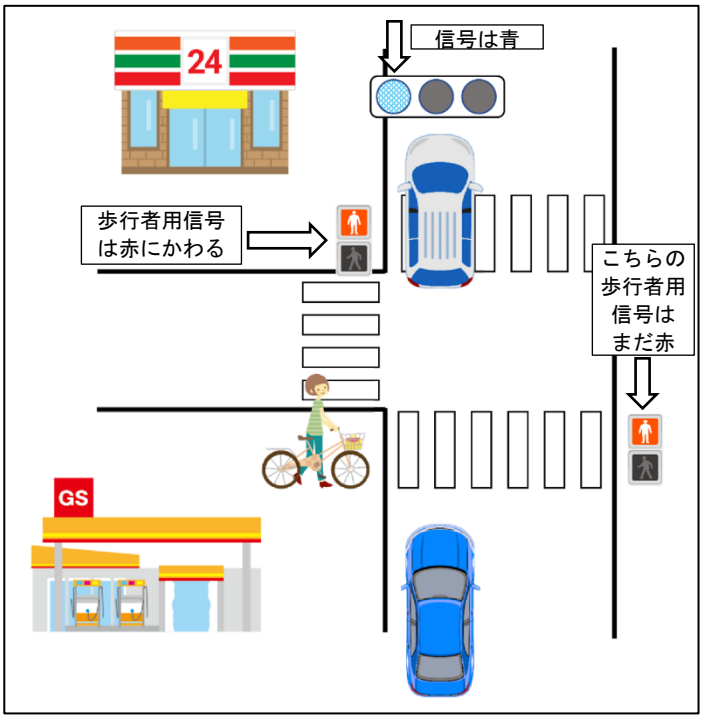
「ああ、そうなんですねえ。はい、はい。（おそらく頷いているのでしょう）」
「ありがとうございます。よろしくお願いします。」
事務室から聞こえてきた、電話での保護者との会話の一部。いいですねえ。保護者も話しやすいでしょう。

「〇〇（児童）と話をしてみようと思います。最近、叱ることが多かったので。」
と私に話してきた先生。
子どもに寄り添うその気持ちや自分の指導を振り返る姿勢。いいなと思いました。

「15 分後に授業を見に来てください。」
※ 結果的に見に行けませんでしたが。
子どもたちの学びの様子を見てほしいということです。「子どもたちが主役の授業」に向けての授業改善として見てもらいたいということでしょうが、これを聞いていた子どもたちにも刺激になりますよね。
これは、間接的に子どもたちを褒めていることになると思います。
また、授業改善に向けて前向きに取り組んでくださっていることに感謝します。

「学級通信で〇〇（児童）を褒めたら、今日、その子はノリノリでした。」
そうです。「学級通信は子どもも読む」ことを意識して書くと、より効果があると思います。
学級通信は、子どもにも間接的に伝えるツールとして活用してみましょう。

動き出した「ほめほめ大作戦」（ほめほめカード）…子どもたちの笑顔が楽しみですね。



このとき、あなたは何に注意しますか？

あなたは住宅街にある道路を走っています。Ｔ字路交差点を直進するところで、点滅していた歩行者用信号が赤に変わりました。
自動車用信号が青のうちに、前車に続いて交差点を通過しようと思います。
このとき、何に注意して運転しますか。
（川東にこのような場所があります）
※解答は次回！